



## 「広島東洋カープ」から

## 育成ドラフトで1位指名

# 二俣翔一さん



### PROFILE

ふたまた しょういち(中町)  
ポジションは捕手。右投げ・右打ち  
所属:小学生「黒潮野球少年団」、中学生「小笠浜岡リトルシニア」

### 育成ドラフト1位指名受ける

プロ野球の各球団が新人選手を獲得するためのドラフト会議が10月26日に開かれ、本市出身の二俣翔一さん(磐田東高校)が、「広島東洋カープ」から育成ドラフト1位で指名を受けた。

二俣さんは、「黒潮野球少年団」で小学1年生から野球を始める。中学時代は甲子園に出場できる高校に入りたいと「小笠浜岡リトルシニア」で白球を追った。「練習が終わり家に帰ってきてても自分が納得するまで練習していた」と話すのは父・豪良さん。二俣さんの強みであるプロ顔負けの強肩と長打力の素地はこの9年間で培われた。

「少年野球で野球の楽しさを教わり、小笠浜岡で技術や体力、精神力が鍛えられた」と二俣さんは当時を振り返る。

### 磐田東からプロの世界へ

二俣さんは、磐田東高校を志望した理由を「練習を見学させてもらったときに、選手が伸び伸びとプレーしているところを見て、ここだったら

自分の持ち味を出せると思うたので決めました」と話す。

入学後はすぐに頭角を現し1年時からレギュラーを獲得。二俣さんは、ベンチにいる3年生の想いを背負いながら必死に練習に打ち込んだ。

自身が3年生となり、順調に経験を積み重ねて挑むはずだった夏の地区大会は、新型コロナウイルスの影響で中止に。小学生の頃から目標としていた甲子園出場の夢は途絶えたが、下は向かなかった。「夏の県大会でつぺんを取る」と闘志を新たににした。7月11日から開催された代替大会では、4回戦で敗退と思うような結果は得られなかったが、自身は4試合で12打数5安打4打点を挙げた。

新チーム始動後も「時間が有効に使える」と察に残り、毎日練習に参加する二俣さん。「プロでは捕手だけの能力では通用しない。打って盗塁も刺せるバランスのいい選手になりたい。プロに入ってからが勝負。残り時間でできる限りの練習をやっていく」と一軍の舞台で輝くため、今日も力強くバットを振り込む。